

活動終了報告書（要約）

採択年度	令和 7 年度
コード番号	25-A-2

団 体 名	一般社団法人モザンビークのいのちをつなぐ会	申請額
		998, 138 円
		助成額(受領額)
事 業 名	モザンビーク・カーボデルガド州における若者向け溶接技術研修による貧困脱出と過激派リクルート防止事業	998, 138 円
		事業地(国名)
		モザンビーク

組 織 及 び 事 業 概 要

■ 組織概要〈創立年、趣旨、主な活動等〉 * 300 字以内
一般社団法人モザンビークのいのちをつなぐ会は 2013 年 4 月設立。グローバル化の陰で不可視化された人々の「いのちの尊厳」を守り、自律と創造的な生活の実現を目指す草の根 NGO。イスラム過激派の紛争が続くモザンビーク北部カーボデルガド州の州都ペンバ市最大のスラム・ナティティ地区に事務所を構え、住民と共に活動している。スラムと紛争避難民の子ども約 500 名が通う「スラムの学び舎・寺子屋」の運営を柱に、配食、公衆衛生・感染症予防、井戸・共同水場の整備、紛争被災者支援（平和の家）、青年の技能習得と小さな商いによる経済的自立支援を展開。日本では講演やワークショップを通じ国際相互理解を推進している。

■ 今回実施した活動の概要）* 400 字以内
当会のペンバ寺子屋の敷地内に「寺子屋工房」を整備し、スラム住民と国内避難民の 18～30 歳の若者 20 名（10 名×2 クール）に溶接技術研修を実施した。地域で溶接会社を営む現役職人 2 名を講師に迎え、安全衛生、溶接の原理、アーク溶接実技、器具の保守点検を短期集中で指導し、チームで木炭コンロとドラム缶オーブンを共同製作した。研修時間外も講師付きで工房を開放したところ、自主練習で作品づくりに取り組む訓練生が多く、講師日数を当初の 20 日から 25 日に拡充した。あわせてビジネス基礎と個別メンタリングを行い、過激派リクルート予防の座学は研修外の青年にも開放して、自立して稼ぐことが家族と地域の平和につながると伝えた。並行してヘルスリテラシー講座（薬物・アルコールの害、健康的な食生活）も実施した。

■ 成果 * 400 字以内
訓練生 20 名全員が溶接コースの全課程を修了し合格した（技能習得率 100%）。講師の合格が出て本人も納得できた作品は、訓練生が自ら母親に贈った。自分の手で作ったものを家族に手渡す経験が、若者の誇りと家族からの信頼を育んだ。楽しみながら溶接に打ち込む姿を見た周囲の青少年からは「自分もやってみたい」との声が多数寄せられ、暴力ではなく仕事で未来を拓くロールモデルが地域に生まれ始めている。一方、過激派の攻撃拡散と中東での戦争の影響が重なり、寺子屋の子どもは 350 名から 500 名に急増し、貧困は一層深刻化している。次年度は溶接コースを継続しつつ、第二弾の車両整備メカニックコースの立ち上げ資金と、請求書・領収書・簡易会計を学ぶためのパソコンの確保を課題として取り組み、寺子屋工房を若者が夢を現実にする場として確立したい。

* 記載者へのお願い：本概での記述は本紙一枚に収めるようにして下さい(全体で 1100 字以内程)。